

花ちゃん、オー君、モンタ博士、フツ博士のかかどお世話立ててくさ

国立市立国立第七小学校

平成30年1月12日 NO.86 (486)



オー君 「あれあれ？ダイコンがあるぞ。」

花ちゃん 「ひょっとして、今日はモンタ博士の『野菜は植物だシリーズ』ですか。」

モンタ博士 「ピンポン。そのとおりだよ。今日はみんなでダイコンを科学してみよう。」

オー君 「ダイコンは大根で、根が大きいからですね。」

モンタ博士 「いや、ダイコンの白い部分を根っこだと思っている人が多いけど、本当はそうではないんだよ。」

オー君 「え！根っこじゃなければ、何なのですか。」

モンタ博士 「ダイコンの白い部分をよーく見ると、上と下ではちがうことがわかるかな。」

花ちゃん 「え！そうなんですか。ちっとも知りませんでした。」

モンタ博士 「上のほうはつるんとしているだろう。そして、下のほうは、根の出たあとみたいなものがあるだろう。上の部分を植物学的には、胚軸といって、下の部分を根というんだよ。」

オー君 「胚軸なんていう言葉は、あまり聞いたことがありませんが・・・。」

モンタ博士 「ごめんね。簡単にいうと、発芽した苗の茎であり、わかりやすくいうと、

カイレダイコンの^{しろ}白い部分だね。その^{した}下にはちゃんとした^ね根もあるんだ。」

花ちゃん 「それでは、^{くき}茎はどこにあるのですか。」

モンタ博士「ダイコンの^{うえ}上の^は葉っぱが^で出ている^{ところ}所をよくみてほしいのだけれど、^{くき}茎は、^は葉の^{つけ}つけ^ねねに^{みじか}短く^あわ^ずずか^ににある^{ぶぶん}部分だけが^{くき}茎というものなんだ。」

オー君 「ふーん。そうなんだ。ちょいとむずかしい^{かん}感じがするけど、ダイコンの^{ふる}ふるさ^ととって、どこ^{なん}んですか。^{にほん}日本ではないのですか。」

モンタ博士「もともとは、^{ちちゆうかいえんがん}地中海沿岸で、^{こだい}古代エジプトでは^{やくそう}薬草として^{さいばい}栽培されていた^そそう^うなんだ。ダイコンは^{せかいじゅう}世界中を^{たび}旅して、^{にほん}そして日本に^き来たんだよ。」

花ちゃん 「^{なまえ}名前のとおり^に、ダイコンは、^{むかし}昔から^{ふと}太かったのですか。」

モンタ博士「いやちが^うらしい。太^{った}のは、^{にほん}日本に^{わた}って^きて^から^なんだ。ヨーロッパ^ななどではダイコンとい^えば、^は二十^日大^根み^{たい}に^{ちい}小さい^そう^なんだ。^{にほん}日本でダイコン^にな^ったのは、^{にほんじん}日本人が^{いろ}いろ^と苦^ろう^して^きた^から^なんだよ。^{にほん}日本のダイコンの^{レベル}レベルは^{せかい}世界一^という^{わけ}さ。」

花ちゃん 「なるほど、^そう^いう^こと^です^か。ところで、^{はかせ}モンタ博士や^{くん}オー君は、^{ダイ}ダイ^{コン}コンを^{どう}や^って^た食^べる^のが^す好き^です^か。」

オー君 「^やっ^ぱり^おで^んです^ね。それから、^{みそ}味噌^じ汁も^{おい}しい^ね。」

モンタ博士「^{はかせ}モンタ博士は、^や焼^きサン^マと^{だいこん}大^根お^ろし^が一^{ばん}かな。でもね、^{ダイ}ダイ^{コン}コン^って、^{ばしよ}場所^{によ}って^{あじ}味^やつ^かい^{かた}方が^{ちが}う^んだ^よ。」

花ちゃん 「え！^そう^なん^です^か。どこ^も同^じで^はな^いの^です^か。」

モンタ博士「^そう^だよ。^くわ^しく^かいた^から、^これ^から^{さんこう}参^考に^して^ね。」

^{かた}固^いが^{あまみ}甘^味の^{ある}所
^{甘い}お^ろし^やシャ^キシャ^キ
サ^ラダ^など^がお^すす^めです[。]

^{すいぶん}水^分が^おお^いしい^所
^煮煮^物や^{ふろ}ふ^きダイ^{コン}
^など^がお^すす^めです[。]

^{やわ}や^わか^く辛^味が^{ある}所
^{みそ}み^そし^るや^つけ^{もの}、
^薬薬^味お^ろし^にお^すす^めです[。]

